

Title	物価騰貴と生活難
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.12 (1918. 12) ,p.1635(1)- 1666(32)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19181201-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(も望大乱附御旨る依に皆廣説雜會學田三は節の又注御へ主告廣)

生地ミスターイル

小川洋服店

裁縫部

電車御成門下車

芝警察署前

(御報參上)

貴下が戦捷に擧ぐるシヤ
ンペンの杯は何所にて御
求なされしか來るべき新
年は已に吾人を待ちつゝ
あり

此際一層弊店の努力振り
御試下され度候

三田慶應義塾前電芝九一七
食器硝子器 豊前屋
割烹用具店

三田學會雜誌 第十二卷第十二號

論 說

物價騰貴と生活難

氣 賀 勘 重

最近三年以來我國內に於ける諸物價一齊に騰貴し來り、殊に昨年末以來食料品の騰貴特に著しきものあるに及んで生活難の聲亦著しく高まり來れり。今日本銀行の調査に係る東京の物價指數表を一覽するに、我が重要商品五十六種の總平均市價は明治三十三年十月の價格を一〇〇として之を觀れば大正三年七月に於

第十二卷 (一六三五)

論 說 物價騰貴と生活難

第十二號

て一二五、七強同四年七月に於て一二五、六強を示せしものが、其翌五年七月に於ては一四七、九強同六年七月に於て二〇八、九弱、本年七月に於て二五六、二強、同八月に於て二七二、強を示し九月には更に増加して二七五強を示すに至れり。即ち大正三年大戦開始當時の平均物價を一〇〇とすれば四年後の本年七月の物價は二〇四、弱にして八月の物價は二一六、強九月の物價は二一八弱に相當せり。故に今若し各家族が此等の商品を均一に消費するものとせば大正三年七月に一ヶ月百圓を要したる同一程度の家計を營まんが爲には本年九月に於ては實に二百十八圓を要するの計算と爲る。唯々各人は此等の商品を一樣に消費するものに非ず、家計費の大部分を構成するものは衣食住の必需品にして此等の必需品は必ずしも悉く如上の騰貴を致したるに非ず、従つて生計費が最近三、四年間に於て十一割餘の増加を爲したりとは斷言するを得ずと雖も米麥及び絹綿布等日常必需品の主要物件が概ね二倍に近き高價となりたるの事實より觀れば生計費の著しく増加し來りて、其増加の少なくも六七割に達せるものあるは復た疑ふの餘地なかる可し。生活難の叫び甚だしく高まり來れる眞に其故なきに非ざるに似たり。

然れど物價の騰貴は常に必ずしも生活難を伴ふものに非ず。物價騰貴に伴ふて所得亦等しく増加するに於ては其人の生活は毫も困難を加ふることなかる可し。例令ば大正三年に一ヶ年壹千圓の所得ありし者が現在に於て二千圓の所得を得るに於ては最近の大々の物價騰貴も毫も其人に生活難を感せしめざる可きが如し。又遠く過去に遡りて之を觀るも明治初年以來我國の物價は一高一低の間常に漸進的に騰貴し來れるの實あり。従つて最近數年間の物價を取りて之を二十年前三十年前の物價に比較すれば何れも著しき騰貴を示し、其差決して這回の開戦前と今日との差に譲らざるなり。今若し物價騰貴を以て直に生活難の原因なりとせば我國民の生活は明治初年以來常に益々困難を加へ來り最近に至りては殆ど堪え得可らざるの状態に達したる可き筈なり。然かも事實は即ち然らず。我國民の生活程度は此間に於て著しく向上し來りて今や實に二十年前乃至三十年前の實狀とは比す可くもあらざるの進歩を致せり。畢竟物價の騰貴ありと雖も然かも其一方に於て充分に之を償ふて餘ある程の所得收入の増加ありたるが爲に外ならざるなり。

加之、既往を追想すれば生活難の嘆聲は決して物價昂進せるの時期に於てのみ聞ゆるの聲に非ず。物價低落し市況沈衰せる不景氣期に於ても亦屢々之を耳にせる所に屬せり。彼の日露戦後不景氣の襲來に際して就職難生活難の叫の一時都鄙に喧傳せられたる、將た又三四年前米價著しく下落し地方農民の所得甚だしく減少せるに際して農村生活困難の聲の朝野の注意を促したる何れも世人の記憶に新なる所なる可し。蓋し當時の物價は敢て著しく騰貴せるに非ず、寧ろ一般に下落の狀なきに非ざりしと雖も、所得減少の程度更に著しきに至れるの人士少なからざるよりして遂に此嘆聲の喧しきを致せるなり。

要するに物價騰貴を以て直に生活難の原因と爲すは輕卒の論斷たるを免れず。所謂る生活難なるものは一般物價就中生活必需品の市價と所得との權衡其常を失し所得の割合物價の水準に及ばざる場合に於て初て現はるゝの事實に屬せり。従つて若し物價騰貴の場合に於て生活難の事實ありとせば、そは畢竟其騰貴に平行する程の所得の増進之に伴はざりしが故に外ならず。所得毫も増加せざるか或は多少増加せるも其増加率遠く物價の騰貴率に及ばざる人々に取りては物價

の騰貴は確に生活難の原因たるなり。

二

依之觀之、最近に於ける我國物價の大騰貴に伴ふ生活難の叫びは一部の定額所得者又は之に類する階級の聲として之を聞けば眞に宜なるものなりと雖も、社會一般の嘆聲としては吾人は容易に之に首肯するを得ざるの感なき能はず。然るに最近物價問題の朝野に喧しきに及び世間往々説を爲す者あり。曰く近來の物價騰貴は國民の生活を苦め、其不安に堪えざらしむと。語氣恰も物價騰貴を以て國民的生活難の原因と爲し其騰貴だに抑制し得ば一般民衆の經濟的生活安易なるを得可しと爲すに似たり。物價調節の急を力説するの餘り遂に此説を爲すに至れりとせば敢て咎む可きに非ざる可しと雖も、斯る言説は動もすれば世間皮相者流の誤解を招き幾多の謬説を促すの虞なきに非ず。是に於てか吾人は一言以て此種の論者に糾す所なきを得ず。曰く我が最近の物價騰貴は果して所謂る國民一般の生活難を醸したるの事實ありや否やと。

物價騰貴の爲に生計の困難を感ずる階級の社會の一部に存在するは疑もなき

事實なれども、翻て他の一方を觀れば市價の騰貴せる物資の生産に従事せる者は何れも其騰貴せる丈け収入を増加せる次第なり。即ち一般の物價十割の騰貴を爲せりとせば生産者は全體に於て其収入倍加せるの結果なきを得ず。故に今若し外國よりの輸出入なく國內全般の物資は何れも國內に於て生産せらるゝものなりとし、而して其市價一般に二倍したりとせば國民全體の収入は等しく二倍と爲る可く、若し社會の一部に其収入増加せざる者又は多少増加せるも其額二倍に達せざる者ありとせば他の一方に於て二倍以上の所得を收むる者必然發生す可き計算なり。換言すれば一方に於て生活難の實あるも之と同時に他の一方に於て生活の向上を生ず可きなり。國民全般の生活難の發生は事實あり得可からざるなり。

要するに物價一般の騰貴は直接生産に従事する者の収入を増加すると共に、所謂定額所得者即ち俸給年金等に衣食する消費者階級の生活を困難ならしむるものなり。蓋し前者の所得は物價の騰貴に伴ひ其騰貴に準じ又は其騰貴の水準以上に増加するものなれども、後者の収入は通例此騰貴に伴ふを得ず従つて其收

入に依りて購ひ得る物資の數量即ち所謂實際の所得は騰貴以前の如くなるを得ざればなり。之と同一の理由よりして物價の騰貴が一部生産物の上のみ起り他の生産物の市價之に伴ふて騰貴せざる場合に於ては、其利益を受くる者は其騰貴せる物件の生産販賣に従事せる者のみにして爾餘の生産者階級は亦等しく収入の増加を致すことなく却つて騰貴せる物件の消費者として共に多少の生活難を感ず可し。然れば最近の物價暴騰が主として我國民の日常生活上重要な輸入品の騰貴より來れるものにして其騰貴に依り利する者は外國の生産者に屬し、内國國民は大部分消費者として何れも不利を蒙るものなりとせば國民一般の生活難を惹起せるものとして物價騰貴を呪ふも誠に其故なきに非ずと雖も、事實は正に之に反し、暴騰せる重要物産五十餘種の中、洋鐵、羊毛、其他數種を除けば主要食料品を初め大部分は何れも我國內の生産に係る物品にして、其騰貴の利益を受くる者は大部分我國內の生産者たるなり。而して此生産者の大利益こそ正に最近數年來國內に大々的好景氣を誘起せる原因たるなれ。

近來世上の識者動もすれば我が上下一般に近年著しく奢侈の風の浸潤せる

を嘆ずる者あり。殊に所謂る大小の成金者流の豪奢に至りては之を痛罵する者
少なからず。而して道徳上より觀れば其痛嘆痛罵亦故なきに非ざる可しと雖も、
翻つて經濟上より觀れば是れ正に一般所得殊に大企業家の所得の著しく増加せ
るを示すものに非ずして何ぞ。一般的生活難の社會に一般的奢侈の風の發生す
可き餘地ある等なし。畢竟國民の大部分は生産者の階級に屬し而して最近の如
く殆ど一切の物資悉く騰貴せるの際に於ては此等國民の大部分悉く多少の收入
増加を致し生活上したるが故に既往の生活程度より目して以て奢侈視し得可
き状態を現出するに至れるなり。惟ふに生活難は社會一小部分の現象に過ぎず、
國民多數の生活は却つて安易を加へたるに非ざるなきか。國民の大多數が生産
者階級なるより觀れば物價騰貴は生活難の原因に非ずして却つて生活上の原
因といふ可く寧ろ一般物價の下落こそ生活難の原因ならずやと思惟せざるを得
ざる可し。

三

由來貨幣一般に流通し所得財産共に其貨幣的代價に依りて計算せらるゝ時世

に於ては貨幣的價格の多少と所得收入其他貨物多少と混同せらるゝこと少な
からず。往時の重商論者を初として當今に至るまで世上の俗説は多く此思想の
錯誤に迷さるゝの常あり。一般の物價騰貴せるの故を以て直に一般人民の生活
困難と爲れりと速断するが如き亦正に其亞流に非ざるなきか。凡そ生活の難易
は貨幣的所得の多寡如何に在らず其所得貨幣に代へて購ひ得可き消費物件の多
寡如何即ち所謂る實際的所得の多少如何に在り。吾人が前に一般の物價騰貴す
るも所得の増加に伴ふものある以上決して生活難あることなしといへるは即
ち之れが爲にして物價騰貴の爲に苦む者は畢竟其貨幣的所得に相當の増加なく
従つて實際の物資享得の量從來よりも減少せるの實ある人士に限れり。然れば
國民全般の上より云ふ時は物價の騰貴は其下落と等しく共に直接に其生活の難
易に關係あることなし。縦令ひ通貨の増減其他特種の事情よりして一部分又は
一般の物價に大なる騰貴又は下落ありとするも苟も生活に必要な物資の供給
に増減なき以上國民全般の生活は一般を通じて之を觀れば甚だしき痛苦又は安
佚を加ふることなかる可き筈なり。若し一部分に之が爲に困難を加ふるものあ

りとせば必ずや他の一方には之に反して相當に安易を加ふるもの存するの常なり。換言すれば物價變動に伴ふ生活難の事實は社會一部階級に屬する現象にして、其反面には此困難を犠牲として所得の増加を喜び好景氣を謳歌する他の階級の存するあるなり。従つて所謂生活難の叫は、定額所得者其他所得の増加比較的少なき一部階級の叫に外ならざるなり。

依是觀之、斯る場合に於ける生活難の問題は物價の高下其物の問題に非ずして所得分配の問題なり。物價變動の爲に所得分配の從來の均衡破壊せられ、一部階級の所得從來よりも加はれると共に他の一部階級の所得從來よりも減少するに至れるより起れる問題なり。唯々斯る場合に於て所得比較的増加する者は何等の不平なく却つて苟に其生活の向上を喜びつゝあるに過ぎざるが故に其聲天下に聞ゆると少なしと雖も、所得の比較的減少せる者は生活の壓迫自ら痛苦を加へ其變動に對する不平を天下に訴ふるに至るの常なり。是に於てか滿天下恰も生活難に苦めらるゝの觀を呈するに至り、物價の變動其物が恰も天下の一大災害たるの感を抱かしむるに至る。物價騰貴すれば定額所得者苦しみ、物價下落すれば

生産従業者苦しむ。前者の生活難に苦しみ後者の不景氣に苦しむ蓋し自然の數なり。而して物價は常に多少變動して止むことなしとせば此意味に於ける生活難は常時社會に絶ゆることなかる可し。即ち生活難は社會常住の一種の慢性的疾患なりと雖も、其困難の反面には前述の如く之を償ひ得可き幸福の増進存するものありとせば、此困難救済の方策は他の一面に存する幸福を取りて之を補ふの外ある可らず。換言すれば世の所謂生活難の本源が所得分配の不權衡に存する以上、之が救済の途は所得分配の状態を改善して其平を得せしむるの外ある可らず。適當の方法に依り此平を得せしむるに於ては生活難の叫は自ら消滅せんのみ。例令ば一般の物價騰貴し定額所得者之に苦む場合に於て若し生産階級より直接間接に徴收せらるゝ各種の定額料金即ち租税、報酬、手数料等の如きものを物價騰貴に準じて増加徴收し、之を以て物價相當に給料年金其他の定額給付を増加するの途を講ずるに於ては、此等階級の實際所得は此に平衡を得て復た物價騰貴に苦まざる可きが如し。通貨の收縮其他物價の引下策に依りて此目的を達する亦其一策なる可しと雖も、直接に所得分配に干渉して其平を得せしむる如上の

施策は其效果決して之に劣らざる可し。否な所謂る生活難の由來が前述の如く主として所得分配の不公平に在りとせば所得干渉は其目的を達するに一層直接的なるものといふ可きなり。

さはれ、斯る人爲的施策に依らざるも、永き歲月の間には所得分配は自ら物價の變動に適應して自然的に其平衡に歸するの傾なきに非ず。蓋し物價騰貴して一部の生産階級の所得特に著しく増加する時は所得比較的少なき爾餘階級の人士中多少其の産業に通じ又は通ずると自信せる者は競ふて其産業に馳するに至る可く、従つて當該産業に於ける生産は其競争と共に自ら激増して茲に其生産物の下落並に従業者の所得の減少を見るに至る可きと共に、他の階級他の産業に於ては之と反對の傾向を生ずるに至る可し。我が實業界の従業者の所得一般に良好と爲れるに拘らず官公吏の俸給之に伴はざるの結果、近年有爲の人士の官公吏を辭して實業界に入る者著しく増加し來り、殊に新進の青年の實業界に志す者甚だしく多きを加ふるに至れる皆此趨勢の致さしむる所なり。所謂る定額所得者の階級皆それ〴〵に社會に必要な職に當る者なる以上、其職業志望者又は従業者

の減少は自ら其報酬の増加を促さざるを得ず。最近に於ける東京市電車の車掌運轉手の俸給の増加の如き正に其一著例にして、官吏教員の増俸論の喧しき亦此傾向の發露に外ならず。要するに所得の分配は永き歲月の間には諸産業相互の間に於けると等しく定額所得者と生産業従事者の間に於ても將た又各種職工人足の間に於ても早晩平衡に歸するに至るものなり。而して一部階級の生活難は此平衡を得るに至るの過渡期に於ける一時的の事實に外ならず。此過渡期一度經過し終れば物價の平準の高低如何は復た問ふ所に非ざるなり。

唯々分業發達して各人それ〴〵に専門の職業に従事する當今の社會に於ては一業より他業に其職を轉すること一般に頗る難事に屬せり。多くの熟練又は教育を要せざる職業に在りては轉職轉業甚だしく難事に非ずと雖も、専門的の智識又は技術を要する職業に在りては此轉換頗る困難にして多くは數年の歲月を要し、最高等の學術又は技藝を要する職業に在りては終生之を轉すること不可能なるもの亦甚だ少からず。従つて多少所得に不利不平ありとするも容易に之を轉するを得ざるなり。此に於てか例令ば簡單なる技術を要するに過ぎざる下級の

職工其他の勞働者に在りては職業の轉換比較的容易に行はれ、其所得亦長年月を待たずして平衡に歸するの實ありと雖も、技術家、其他高等の教育と素養と熟練とを要する所謂知識階級の職業に在りては此平衡を得ること頗る困難否な多くの場合に於ては全く不可能事に屬せり。例令ば法律家の収入如何に大なりとするも、數學者轉じて法律家と爲るを得ず、鑛山技術家の収入如何に羨む可きものありとするも、文學者轉じて鑛山技術家と爲るを得ざる可きが如し。従つて此種の職業に於ては後世新進の青年の有利なる職業に進む者増加し不利なる職業に入る者減ずるを待つに非ざれば遂に其平衡を得る能はず。所謂需要供給の法則の自然の妙用も此方面には容易に所得分配の平衡を齎すを得ずして前述の過渡期は頗る長年月に亘り永く其不平均を持續するなり。

何れにもせよ、需要供給の自然の妙用は所得分配上に於ても早晚其平衡を實現せしむるに至るものなるが故に、物價の騰貴も將た又其下落も其事實が數年月に亘り漸進的に徐々として現はれ來る時は所得の分配亦自ら之に適合するを得て社會に甚だしき不平不満の聲を聞くことなきを得可し。試に明治二十年前後と

大正四五年度の物價を比較すれば此三十年間に於ける一般物價の騰貴は這同の大戦開始當時と今日の間、に於ける騰貴以上遙に大なるものあり。然かも此三十年來の漸騰に對して生活難を訴へ其調節を絶叫する者あるを聞かざるは何ぞや。他なし此長年月の間に於て所得の分配亦概ね自然に之に適應するに至りたればなり。然るに最近の物價騰貴に際して獨り此聲の喧しきに至れる所以のものは畢竟物價の騰貴急激に起り所得の分配容易に之に適應するを得ざるが故のみ。所得分配の自然的適合には前述の如く長日月を要するものあるに拘らず、物價の騰貴急激に至り近き將來に於て容易に之に適應するの望なきが故のみ。斯る事情あるが故に世間殊に定額所得に衣食する知識階級の人士は需要供給の法則の自然の作用に俟つを得ずして人爲的の物價調節策を要求するに至れるなり。斯く觀じ來れば所謂物價調節の要求は事實上物價其物の調節の要求に非ず、要求する所は主として所得分配の均衡恢復に在り、物價調節通貨收縮等は此目的に對する手段に外ならざるを知る可し。

四

以上吾人は物價騰貴が全般の物資其物の供給に増減なく單に通貨其他の關係より來れる場合に就て論述したり。而して斯る場合に於ける物價騰貴の問題は所謂一般的生活難の問題に非ずして所得分配改善の問題なる次第を指摘したり。然れど物價一般の騰貴は常に必ずしも物資の供給其物に關係なく單に通貨又は信用等の關係のみより來るものに非ず。時としては一般物資の供給缺乏より來ることあり。一部分の貨物の供給不足が其市價の騰貴を促すは勿論、各種の貨物全般の缺乏よりして諸物價全般の騰貴を致すは戦争又は大凶作期等に屢々自擊せらるゝの事實なり。一般的物價騰貴が斯る原因に基づける場合に於ては前述の場合と異なり。國民全般の上に實際の生活難現はれざるを得ず。蓋し斯る場合に於ては縦令ひ物價騰貴して購買者一般に困難するも、其一方に物資供給の當局者たる生産従業者の収入は其割合に増加せず、縦令ひ多少増加するも其増加額は前述の如く購買者の支出の増加を償ふに足らざる可ければなり。

要するに物資の供給缺乏せる場合に於ては其價格の高低如何に論なく全體に於て社會全員の實際所得は其缺乏額丈け減少せざるを得ざるが故に、其缺乏に伴

ふ生活難は社會何れの階級か必ず之を負擔せざるを得ざるなり。物價の騰貴に依り生産従業者の實際所得減少するに至らずとせば定額所得者此苦痛を享けざる可らざると共に、若し之に伴ふ物價の騰貴なく従つて定額所得者の生活舊の如くなるを得可しとせば物資の減少せる丈け生産業者は其収入減少して生活難に苦まざるを得ず。或は物價の騰貴充分ならず従つて生産不足に伴ふ生産従業者の収入の缺陷全部を補ふに足らずとせば、此に生産従業者は多少の生活難を感ずると共に購買者消費者も亦其多少の騰貴の爲に等しく多少の生活難を感ぜざるを得ざる可し。即ち此場合に於ける物價の高低如何は物資缺乏の必然的結果たる生活難を生産者に於て負擔す可きか消費者に於て負擔す可きか將た或は生産者消費者兩階級に於て分擔す可きかの問題にして、何れにして生活難を解除するの途にあらざるなり。唯々此場合に於て其免る可らざる生活難の痛苦を單に定額所得者又は其他の一階級に於て負擔するは諸階級均等に苦痛を分つよりも忍び難きものあるが故に物價の騰貴は相當の程度に之を抑制するの必要ありと論ずるものありとせば、其問題の根本は物價の調節其物に非ずして亦等しく所得分

配の改善に在りといふを得可し。

併し一國內に於ける物資の缺乏は内國生産の不足のみに基くものに非ず、内國の生産は従来よりも不足することなく却つて多少増加せるも其一方に於て外國の需要著しく増加し輸出激増せるが爲に内國に於ける其物資の供給甚だしく減少することあり。斯る場合に於ては物價は著しく騰貴するの常なるが故に定額所得者階級の甚だしく之に苦しむに至るは當然の次第なれども、併し其一方に於ける生産従業者の所得増加は遙に此定額所得者の支出増加額以上に出で其所得の増加は適當に之を分配するに於ては定額所得者の痛苦を償ふて餘ある可し。蓋し此場合に於て生産業者は其生産物の騰貴に依り單に内國の消費者のみならず外國の消費者をも犠牲として其所得を増加せるものなればなり。之と等しく輸入の障害よりして物資の缺乏、物價の騰貴を見ることあれども、此場合に於ては其騰貴の爲に利するの人数なく而して苦む者は其消費者全部なるが故に、其結果は上來論述せる生産不足の場合と等しく、其間何等の差違あるなし。

要するに物資缺乏より生ぜる生活難は其物價の高低に依りて之を排除し得可

きものに非ず。物價の高下に依りて調節し得可きものは實際所得の分配あるのみ、一般的生活難の問題に至りては適當なる供給増加の方策に俟つの外到底根本的に之を解決するの途なきなり。果して然らば此供給増加の方策如何。吾人を以て之を觀れば、國內の生産を増加するか若しくは外國よりの輸入を誘導して其缺を補ふの外なく、輸出の激増に基づく缺乏に際しては其輸出を沮止して國內物資の充實を謀るの外なかる可し。而して物價の騰貴は平時の場合に於ては通例此供給増加を促すの妙用あるものにして、即ち其騰貴は一般に生産者の營利的活動を激勵し其生産増加を促すの作用あると共に、一方には外國よりの輸入を招致し又一方には輸出を困難ならしむるものなり。然れば貸すに相當の歳月を以てするに於ては前述せる單純なる物價騰貴の場合と同じく其弊害自ら緩和さるゝに至る可し。殊に部分的の物價騰貴に際しては甚だしく長日月を要せずして此物價の平均作用自ら行はるゝの常なれども、併し一般的に物資の缺乏せる場合に於ては國內の有限なる生産要素の性質は急速に生産の増加を促し難く、然りとて生産力の急速の増加望み得可らざる以上外國の大輸入を促すことも亦困難なら

ざるを得ず。縱令ひ一時其輸入を促すも、それは畢竟一時的の物資充實にして國民經濟の後日の債務を加ふるものなるが故に、永く其効果を期す可らず。殊に輸出の増加より起れる物資不足の場合は外國の物價遙に内國の物價より高位に在るが爲に生せるものにして、畢竟世界全般の物資缺乏せるの結果に外ならざれば、斯る場合の輸入増加は到底多くを望むを得ず。唯々斯る場合に於て多少内國の供給を豊ならしむるの途は強ひて之を求めば輸出を制限又は禁止して其流出を防ぐの外なかる可し。内國の物價騰貴は正に此輸出を制限する自然の方策なれども、其騰貴尙ほ輸出を沮止するに足らずとせば、更に甚だしく其市價を引上げ外國人をして之を購ふを得ざらしむるか、若しくは法律に依りて斷然其輸出を禁止するの外ある可らず。斯る場合に臨み内國物價を低位に維持し然かも法律に依り輸出を禁止することなくして内國物資の充實を望むは恰も木に縁りて魚を求むるが如けんのみ。一般的の物資缺乏に基因する生活難の發生に際して短日月の内之を緩和するは實に至難の業なりといふ可し。惟ふに是れ、産業不干涉を以て經濟政策の本義とせる英國すら戰時の窮乏に驅られて餘義なく法律手段に依

り其幾多の内國生産物の輸出を禁止するに至れる所以なる可し。

五

今つらく我國に於ける最近の物價騰貴の由來を觀るに、線綿、洋鐵、洋釘、硝子、毛斯綸等幾多の輸入商品に在りては其騰貴は輸入の障害に基づき、而して其輸入の障害は輸出國に於ける當該商品の缺乏、輸出禁止又は船腹の不足等概言すれば世界的の供給缺乏に基因し、前述せる純然たる物資缺乏の因を爲せり。従つて此方面より生せる生活難に對しては内國の生産を翼進するか若しくは戰爭終了して外國の供給力復活するを俟つの外、所謂物價の調節に依りて之を緩和する途あることなし。然れど冒頭所述の日本銀行調査に係る我が物價指數の基礎と爲れる五十六種中、其大部分を外國に仰ぐ物は前述せる數種の外、三四を數ふるに過ぎず、爾餘大部分の商品は概ね我が内國の生産物にして、然かも其騰貴率の此等輸入品に下らざるもの亦決して少なからず。即ち米、麥、味噌、砂糖等の食料品を初として生糸、絹布、セメント、木材、石炭、薪材、木炭等其市價の三四年間に二倍三倍せる物甚だ多く、其他五割七割の騰貴を致せるものに至りては殆ど悉く然らざるなきの有

様なり。

勿論此等の騰貴せる内國生産物中には主要原料を外國に仰ぐの關係よりして外國に於ける原料市價の騰貴の爲に騰貴せること例へば綿糸綿布の如きものあり或は代用輸入品の輸入阻止せられたるが爲に其需要急増して騰貴せると例へば藍の如きものあり。従つて此等の騰貴は亦等しく輸入の障害に在りといふを得可しと雖も併し大部分の内國生産物に在りては斯る供給減少の原因あるに非ず。然りとて三四年引續き凶作又は生産緊縮の事實ありたるに非ず。其大多數に就て之を觀れば市價の騰貴は大に生産業者を刺激して著しく其生産を増加せしめたるの狀あり。唯々此生産額の増減如何に就ては信賴し得可き正確なる統計の以て徴す可きなく従つて其増加率如何を知るに苦むと雖も大體的なる農商務統計に就て之を觀れば農産物に於て著しき減少を示せる物なく多くは多少の増加を示せる上に、鑛産林産の物資に至りては著しき増加を示せるものあり。加ふるに石炭の採掘量の著しく増加して遙に輸出量の増加以上に出づるに拘らず其需要の益々激増して市價亦爲に著しく昂騰せるより觀れば諸工業の繁榮と其

生産の増加の著しきものあるを覺えざるを得ず。其他人口の増加別に其率を減じたるに非ず多數の兵員の動員又は戦死を見たるに非ずして然かも都鄙共に勞働力の缺乏の叫び甚だしく就職難の聲社會に絶えて失業者の少なさと近世稀なるの事實なるより察すれば吾人は又生産界の活躍と生産力の増加の甚大なるを想はざるを得ず。由來生産の増加は供給の潤澤市價の低落を致さしむるの常なるに然かも最近の傾向正に之に反し生産増加の微斯の如く歴然たるものある其反面に於て殆ど一切の貨物の市價の昂騰序上の如きものあるは何ぞや。他なし歐洲の大戦が諸外國に於ける物資の缺乏を惹起し其缺乏が我國生産物の輸出を促して其輸出増加の爲に國內の物資比較的に不足するに至りたるが爲のみ。

此見地より觀れば最近の物價騰貴は物資の缺乏より來れるものゝ如く従つて一般的生活難の原因亦此に在りと斷言し得可きが如しと雖も併し此物資缺乏の程度が果して生活難絶叫者の想像するが如く實際甚だしきものありや否やに就ては吾人は多少の疑なきを得ず。我國の輸出は開戦以來著しく激増せり大正三年に五億九千百萬圓なりし輸出年額は同四年に七億八百萬圓同五年に十一億二

千七百萬圓、同六年に十六億三百萬圓に達し、大正七年度に於ては前半期の趨勢を以て之を推測すれば正に十七八億圓に達して四年前に三倍せんとするの狀あり。此總價格の上より察すれば大に國內の物資窮乏を惹起せるの觀なきを得ずと雖も、更に各種商品の市價を觀れば綿糸綿布製茶生糸絹布を初として銅石炭等の類に至るまで何れも五割八割乃至十割を増し中には戦前に三倍せる物すら二三を數ふるの有様なり。従つて輸出總價格三倍せりと雖も實際の輸出せる貨物の數量は遙に其下に在りて、到底二倍の多きに達すことなく、寧ろ三四割多くとも五割の増加に過ぎざるなきかを想はしむ。由來我國の外國貿易額は輸出入共に歐米先進國に比して甚だ少なく、國內の生産は大部分内國の需要に對する供給を主とし、外國に輸出せらるゝ生産物は全生産物の一小部分に過ぎざるの風あり。然れば今此一小部分に過ぎざる輸出數量が僅に其三割乃至五割を増加したればとて、爲めに生せる内地供給の缺陷は之を全生産全供給の上より觀れば實に一小缺陷に過ぎざる可きこと推知するに難からず。加之、其一方には前述の如く著しく生産力の増加せる徵証の存するあり。此生産力の増加は或は輸出増加に基づく

供給の缺を補ふて尙ほ餘あるやも未だ知る可らず。怨むらくは各種の生産量及輸出量に關する正確の統計なく、従つて兩者の比較對照を計數的に表示するを得ずと雖も、吾人は我が産業界最近の狀勢より推斷して生産増加の量の寧ろ輸出増加の量以上に在るを想ひ我が國民の全體に於て日に益々生活難に陥るものに非ずして寧ろ物資の供給月に益々加はり、生活の程度亦益々向上しつゝあるものなるを信せんと欲す。或は縦令ひ吾人の想像するが如く物資の供給潤澤を加ふるに非ずとするも、兎に角我國に於ける物資供給の實狀は幾多の生活難論者の想像するが如く、又國力を擧げて戦争に従事しつゝある歐洲諸國に於けるが如く甚だしきものに非ず。従つて所謂る生活難問題物價問題は眞の國民的生活難の問題に非ずして寧ろ主として一部階級の生活難、所得分配の不公平に對する不平の問題たるなり。蓋し如上の輸出入の關係が全般の物資供給に及ぼせる影響は甚だしく大なるものに非ざること吾人の想像の如しとするも、此輸入の障害輸出の激増が國民各員間に於ける所得分配に及ぼせる影響は至大なるものあればなり。即ち先づ輸入障害に基づける輸入品騰貴に就て之を觀るに、其騰貴は一般に消

費者を苦しめたること多大なれども、同種類の商品又は代用品の生産に従事せる企業家は數倍數十倍の其騰貴に依りて著しく利益せり。其利益は舊來の企業家をして其事業を擴張せしめ、新なる資本家を驅りて其企業を起さしめたり。而して其擴張企業新設企業は戦争の繼續永きに從ひ益々其利益を増倍せり。従業員も勞働者も俸給賃銀の増加に依りて豫想外の所得を得るに至れり。此輩に取りては多少の物價騰貴何かあらん。五割十割の騰貴も其所得増加に比すれば復た言ふに足らず。其生活は益々潤澤と爲り、購買力は増進し所謂奢侈の風も傳播せり。然かも生活難は容易に感せられざるなり。是れ正に戦争景氣の第一歩にして物價騰貴の發端なり。之と同時に輸出の激増と之に伴ふ輸出品の騰貴は更に其生産者及び商人を潤ふせり。而して此等の時勢の好運兒の收入激増は又重要輸入品及び其代用品の内國生産従業者の利益増加と等しく其餘澤を其従業員及び勞働者に及ぼし其の購買力と生活程度とを増進せしめ、此に戦争景氣の喜を傳播せり。而して此等の徒の收入増加は高き市價に内國消費者を苦しめたるのみならず外國の消費者をも亦等しく苦めて其増加益々多きを致せり。斯く

て此兩方面に發生せる購買力の増進は漸次爾餘一般の消費物件の上に騰貴を喚起し又此徒の蓄積せる資本の放下は新事業の勃興を促して原料器械等の騰貴をも促すに至り、此に所謂一般的物價騰貴を惹起せるなり。而して此等輸出品生産者の利得たる外國消費者までも犠牲として増大したる丈、其購買力の増加も亦殊に著しく、一方に於て内國消費者の之が爲に失ふ所よりも遙に大なるものありし結果、一般の物價をして殊に著しき騰貴を致さしめたり。然り而して此騰貴の殊に著しかりし丈、其一方に於ける直接生産に携はらざる人々殊に定額所得者の生活は特に甚だしく壓迫せらるゝに至る。蓋し自然の勢なれども、生活難の當面の人士は自然の勢として之を座視するを得ず。生活の困難に堪えずして其苦境脱出の策を講じ、其必要を天下に絶叫するに至る。物價調節の要求は即ち其叫の一なり。通貨收縮の要求も亦其一なり。而して此要求此叫聲は最も生活難に苦める者が知識階級言論階級に多かりし丈、其聲は愈々高く聞えて天下一般の聲と見做さるゝに至れるなり。然れど事實に於ては實に直接生産の利益に參與せざる一部階級の聲に過ぎず。一部階級の生活難の叫にして天下の聲に非

ざるなり。其一方には悠然として好景氣に謳歌する多數の國民の存するあるなり。詮じ來れば所得分配の平衡破壊よりして不利の地位に陥れる階級が所得分配の改善を叫ぶの聲に外ならざるなり。

六

物價騰貴と生活難の關係は大體序上の所説の如し。現下の所謂る生活難の救済策は一般に好景氣の場合に於ける一部の生活難救済の策と等しく主として所得分配の問題なり。此所得分配の不平均を致さしめたる原因其物が物價の騰貴に在るが故に、其原因たる物價を調節し之を平靜の狀態に復歸せしめて分配を平時の權衡に復歸せんとする者は即ち所謂る物價調節の要求なり。物價の調節が生産又は分配の経過の上に著しき變動を及ぼさずして容易に之を實現せしめ得可きものなりとせば其調節策の實行は所得分配調節の爲にも亦至便且最適當の方策なる可しと雖も、物價變動の影響は其變動の原因と等しく共に單純なるものに非ず。現に最近の物價騰貴が或は輸入の杜絶に基づき或は原料の不足に基づき或は外國に於ける消費の激増に基づき或は一部好景氣者流の購買力の増加に

基づき或は事業の勃興通貨の膨脹に基因する等其原因頗る複雑にして、従つて騰貴實現の遲速も騰貴率の高低も物に依り種々雑多なると等しく、之が調節低下の方策も其原因の性質に従つて種々多様ならざるを得ず、又原因の種類に依りては人爲的に之を刈除すること事實不可能なるものも決して少なからざるなり。今若し之に臨むに通貨收縮輸出制限其一二の人爲の方策を以てせば或は多少物價の低落を促がし所得分配上實際に物價騰貴に苦める者の生活難を緩和するを得可しと雖も、他の一方に於ては其政策の爲に先づ市價下落の生ずる商品の生産業者を苦め或は其事業の收縮又は倒壊を促すなきを保せず。泡沫的事業の濫興を制限するは望む可しとするも、生産の減退を促すは物資の供給缺乏の因を爲して結局國民の實際所得減少の實を生ぜざるを得ず。果して然らば生活難緩和の途に非ずして却つて之を促進するものといふ可し。

由來人爲的の物價制限は動もすれば生産の減退國民所得の減少を惹起するの傾あり。是れ一方に幾多の生活難を醸すものあるに拘らず世人の一般に物價の向上、好景氣の發生を歓迎する所以、而して此物價騰貴は平時に於ては自ら生産の

増加と輸入の増進を促し、騰貴の勢甚だしきに至らざるに先づ自然に調節さるゝものなれども、大戦以來の我國物價は此常規の外に出で、一方に生産増加の實あるに拘らず、輸出は激増して然かも輸入は増加せず、物價騰貴の勢は依然として繼續せり。畢竟物價騰貴が我國特有の現象に非ずして世界的の物資缺乏に基づき世界的の一般現象なるが故なり。然れば若し此場合に強ひて物價を低落せしめ然かも直接に輸出を制限することなくんば輸出は愈々益々激増して我が物資の缺乏は愈々益々甚だしからざるを得ず。輸出の絶対制限を伴はざる物價調節は實際我國民の生活難を益々甚だしからしむるものなり。蓋し斯る世界的物價騰貴の場合に於て國內の物價を高位に居らしむるは内國の物資を潤澤ならしむる自然の方法にして、物價高きに居ればこそ即ち物資の缺乏甚だしからざる所以たるなれ。觀じ來れば直接の物價を左右せんとする政策の實行至難なること推して知る可きなり。

是に於てか吾人は物價騰貴に基づける所得分配の不權衡を矯正するの途他に存するなきやを想はざるを得ず。惟ふに直接に所得の分配に干渉して或は直接又は間接に俸給勞銀等の決定に干渉し或は地代家賃等の協定に干渉するは等しく分配改善の實を擧ぐるの途にして然かも其弊害却つて物價干渉よりも少なきものに非ざるなきか。勿論此種の干渉にも幾多の弊害と不公平とは伴ふ可く世間の反對又少なからざる可しと雖も實際所得の減少に惱める階級が社會の一小部分に局限せられたる場合に於ては、此種の方策は一般の物價調節よりも實行却つて容易にして其影響する所亦著しく狭少なるを得可し。經濟政策上の施設は概ね一種の方便策のみ。絶對的に良否の差別あるに非ず、要は時と場合に臨み比較的利益多く弊害少なきものを撰みて之を實施するに在りとせば、物價干渉か所得干渉かの此撰擇問題も四圍の事情に應じて取捨す可く、場合に依りては之を併せ行ふも亦一策なる可し。

要するに生活難緩和の方策如何は實際所得の問題なり。従つて其緩和の根本方策は先づ生産の増加其他の供給増加に之を求めざる可らず。物價騰貴して生活難起れりとせば生産の増加に依り供給を潤澤ならしめ其市價の下落を誘起して之を緩和するは至上の自然の方策なり。唯々其騰貴一時の變動に基因して突

發し來り、之に伴ふ急速なる生産増加の途講じ難しとせば、吾人は其一時の急に應ずるの策として所得分配に對する直接間接の干涉に之を求めざるを得ず。而して物價調節は此分配改善を主眼とせる間接の一方便たるのみ。吾人は敢て現下の生活難對應策として物價調節を絶對に否認するものに非ずと雖も、物價調節以外更に對應策なしと誤認せるが如き一部の言論社會に對しては少しく反省を促さざるを得ざるを覺ゆ。生活難緩和の問題の解決は一は生産其他の方法に依る供給増加の方面より、又一は所得分配其物に對する施設干涉の方面と物價調節の方面とより之を比較研究して適當の方策を取捨決定するを要す。其直接原因の物價騰貴に在るの故を以て單に物價調節のみに着眼するは偏見たるを免れざる可し。此に物價騰貴と生活難の關係を概説して問題の真相を闡明せんと試むる所以斯の如し。(大正七年十一月十七日稿)

ハリファアックス卿の貨幣改鑄を中心として

喚起せられたる貨幣論争(其一)

高橋 誠 一郎

王政復古後、幾許ならずして、Charles二世の政府は Council of Trade の意見に聽從して、輕卒か、早計か、そも英斷か、地金論者流の因襲を唯だ一擧の下に破却し去つて、著しく自由なる貨幣政策を採用し、以て幣政史上に一新時代を畫したり。地金銀の無免許輸出許可並に造幣局に輸納せらるゝ地金銀の自由鑄造是なり(15 Charles II. c. 7 & 9. 並に 18 Charles II. c. 5.) 即ち前者の前文に曰く、而して幾多の重要且つ有利なる貿易は正貨若しくは地金銀なくして合宜に推進し而して遂行せらるゝこと能はず、而して彼等は之が輸出に對して無障の自由を與ふるが如き地に(共同市場に對するが如く)最も十分に輸致せらるゝこと經驗に徴して明なるが故に、而して